
咲き乱れよ！

ナミヘイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

咲き乱れよ！

【Zコード】

N6459M

【作者名】

ナミヘイ

【あらすじ】

春。晴れて高校進学をキメた俺。野望は高校デビュー！具体的なプランなど何も無い！何をもってして高校デビューとなるのだろうか。その定義すら曖昧だ！だけど今までの人生に別れを告げ、新たな道をいざ進まん！意気込んでいたところに現れた謎の美少女。野望を聞かれた俺。それが俺達の出会いだった・・・

出会い

春、桜舞い散る季節。

長い緩やかな坂道にあつらえられた様に並ぶ桜木。その道の続く先にある、全校生徒約五百人程の高校、蘭菊高等学校。今日は新入生の入学式である。

今日から俺もイチ高校生だ。昨日までの俺よ、アディオス！おめでとう今日からの俺。そう、色んな意味でおめでとうだ。

無事に高校進学できた俺、おめでとう。

今日から心機一転、人生を変えてやると決め込んだ俺、おめでとう。そう、いわゆる高校デビューというやつだ。

必ずだ。必ず変えてみせる！今までの冴えなかつた人生とはおおそりばだ。

これから戦いと氣合を胸に秘め、熱く力強い握りこぶしを胸の前で作り、頭上を見上げる。

それはもう見事に咲き誇った桜が所狭しと咲いていた。

ふふ。まるでこの桜も俺のことを応援してくれているようだ。

「俺はここで自分の人生に花を咲かせるのだ。そう、この桜達のように咲き乱れるのだ、わはは。」

感極まつて思わず声に出してしまつていたようだ。

そこで「ふと冷たい視線を感じた。

振り返ると一人の女の子が立っていた。

第一印象を言葉で表すなら、まず背の高さだった。

今時ではありえないほど低い。小学生高学年でもそのサイズはないだろうと「う低さだ。

俺の目算で135cmくらい。

そして異常に長い髪。腰の辺りまで伸びた綺麗なストレートヘア。

この世のものとは思えないほど美しい、綺麗な髪。

キュー・ティクルの質が人工のソレを完全に凌駕している。

そして極めつけが小さくも、綺麗に整った端正な顔立ちだった。

目は・・・ってか目つきは・・・なんだか悪そうなのが気になるが。

単純な言葉で表すと、まさにフランス人形の様な人間がそこに現実として立っていた。

その背丈から小学生かとも思つたけれど、どうやら違つよつだ。
同じ高校の制服を着ている。

つまりは俺と同じ高校生ということだ。

つーか、本当に人間なのか？怖いくらい綺麗だ。

そこで俺の心臓がドクンと大きく波打つた。

なんだこの胸の高鳴りは！？なんだかヤベエ！

え？つてか、さつきの独り言きかれちゃつたかな？

なんだか意味も無く、無駄に焦つてきた。

そして無駄に焦つた結果俺がとつた行動が、

「お、お、お、おはよっ！」

！？

見ず知らずの女の子に思わず挨拶してしまった。
すると一言返事が返ってきた。

「は？・・・」

あ、やばい。アレはドン引きの目だ。

何か無いのか！気の利いたセリフは！

「きよ、今日はいい天気ですねっ！」

「・・・」

そして出てきたセリフはありきたりなセリフ。
しかも曇りだつた。

「絶好の入学式日和ですね。」

「・・・」

そんなはずはない。

「蘭学の生徒ですよね？」

蘭菊高校

これから入学式に出席するつてことは俺と同じ一年ですか？と続けて質問した。

「そうだけど。」

お、やつとまともな答えが返ってきた。

いい感じじゃないの？

このままの調子で話を続ければ、案外簡単に仲良くなれるかも！えつ！？ちょっと待って、俺。

何。何なの？

俺、この子と仲良くなりたいの？

たつた今知り合つたばかりだよ？（知り合つてなどいない）

ナニナニコノヘンナキモチ。

もしかしてこれが噂の・・・

などと一人悶えていると、

「じゃあ、行くから。」

スタスタとその場を去つて行つてしまつた。

あ、まずい。

今この場で何かしらフラグを立てておかないと、この先一切進展しないままだ。

それだけは避けなければ。

そして慌てて追いかけ、そう、慌てたが故に、思わず彼女の肩に手を置き、引き止めてしまった。と、同時に俺は宙を舞つていた。

何が起きたか、何をされたかサッパリ分からず、気が付けば俺は地面に叩き付けられていた。

「気安く触つてんじゃないわよ、このストーカー野郎！」

浴びせられた罵倒でハツとなり、全身に痛みが伝わり、そこでやつと気が付いた。

俺もしかしてこの子に投げられた？

こんな小柄な子に？

そしてふいつとそっぽを向いて再び学校へと歩き出した彼女。

俺は情けなくも、地面に倒れたまま彼女の後ろ姿を見送るしかなかつた。

凛々しくもその美しい後ろ姿を。

そして俺はその場で随分とへこんでいた。

情けない・・・ああ情けない。

大の男があんな小さな女子に投げられるなんて・・・
アレ？でもバツチリフラグは立つたんじやね？

最悪の印象から始まる物語。

いいんじゃないのいいんじゃないの。

うん、悪くないよ。いい感じだよ。

立ち直りは早かつた。

変なところでポジティブなのだ。

こうして俺と彼女の小さな、ほんの小さな点と点が、細い線で一本繋がつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6459m/>

咲き乱れよ！

2010年10月10日21時25分発行